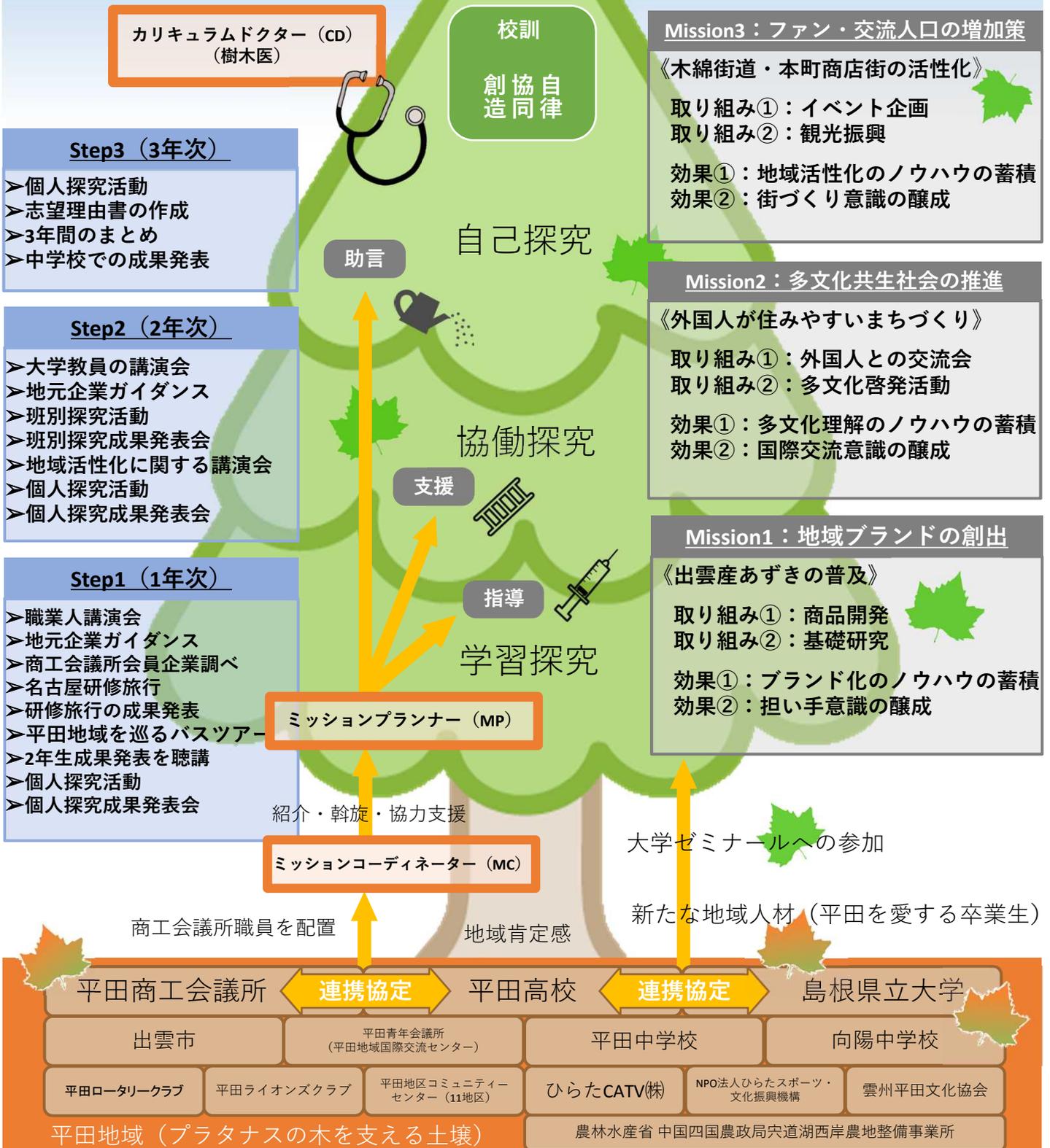


# 地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」

「プラタナス」は平田高校の校歌の一節にも登場してくる平田地域のシンボルツリーである。  
 過疎化や高齢化、産業の衰退が進む平田地域において、地域の課題解決に向けた「地域協働学習」を柱としたカリキュラム開発をすることで、生徒自身が『自分というプラタナス』を育て、地域にイノベーションをおこすことのできる人材を育成する。  
 また、大きく育ったプラタナスの木（卒業生）は豊かな土壌地域を育み、新たなプラタナス（次世代を担うこども達）を育てていく「地域人材育成循環システム」を構築できる。

「自分」というプラタナスを育てる



ふりがな	しまねけんきょういくいいんかい	ふりがな	しまねけんりつひらたこうとうがっこう
管理機関名	島根県教育委員会	学校名	島根県立平田高等学校

## 2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

### 1 管理機関・学校の概要

#### (1) 管理機関名, 代表者名

管理機関名：島根県教育委員会

代表者名：教育長 新田 英夫

#### (2) 学校名, 校長名, 研究を実施する学科

学校名：島根県立平田高等学校

学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名：坂根 昌宏

### 2 取組内容

○地域人材育成に資する地域課題の解決等に向けた研究を中心とした教育課程の研究開発

「地域人材育成循環システム【平田プラタナスプラン】」により、地域の課題解決に向けた「地域協働学習」を柱としたカリキュラム開発による継続可能な地域人材の育成に取り組む。

高校卒業後も地域で学びの土壌を育み、次世代を担う子どもたちを育てる循環システムを構築し、人材を外部から招くのではなく、内部で育てて根付かせていく。今ある地域資源を活用し、多文化共生と合わせて新たな価値を生み出し、地域にイノベーションを起こすことのできる人材の育成を目指す。

### 3 管理・運営方法

#### (1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名	
島根県立平田高等学校（地域協働推進校）	校長	坂根 昌宏
平田商工会議所	会頭	大谷 厚郎
公立大学法人島根県立大学	理事長	清原 正義
出雲市	市長	長岡 秀人
平田ロータリークラブ	会長	持田 稔樹
平田ライオンズクラブ	会長	中濱 賢造
平田地域コミュニティセンター（11地区）	佐香コミュニティセンター長	服部 昌幸
平田青年会議所	理事長	園 敬司
雲州平田文化協会	会長	山下 壮一
ひらたCATV	代表取締役社長	石原 俊太郎
NPO法人ひらたスポーツ・文化振興機構	理事長	二瀬 武博
出雲市立平田中学校	校長	糸賀 和雄
出雲市立向陽中学校	校長	糸原 進
カリキュラムドクター	島根県非常勤職員	金築 千晴
農林水産省中国四国農政局宍道湖西岸農地整備事業所	所長	井 雄一郎
島根県教育委員会	教育長	新田 英夫

① コンソーシアム全体の会合・・・年1回実施する。（2019年5月14日に実施）

② コンソーシアムの役員会・・・事業の中心となる平田高校、平田商工会議所、島根県立大学、出雲市、島根県教育委員会の代表で構成する。年1回実施する。

③ コンソーシアムの実行委員会・・・事業の中心となる平田高校、平田商工会議所、島根県立大学、出雲市、島根県教育委員会の実務担当者で構成。年3回（高校の学期に1回）実施する。

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

「平田プラタナスプラン」により、平田高校魅力化コンソーシアム実行委員会での対話や、協働活動の場をとおして、子どもの未来と地域の未来を共創・共有する。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

総合的な学習（探究）の時間の各学年、また学年間のPDC Aのストーリーを作成する。また、総合的な学習（探究）の時間に紐付く各教科・科目の内容を有機的に題材構成していく。

これらのストーリーは、高校魅力化コンソーシアムにおいて共有し、検討、改善を行う。

(4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）の指定及び配置計画

氏名・経歴	配置計画
ひらた在宅SOHO支援センター ポコアネット代表 金築 千晴	・呼称「カリキュラムドクター」 ・島根県非常勤職員として雇用 ・平田高校教務部に配置、原則週2日勤務

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

氏名・経歴	配置計画
平田商工会議所 事務局長 山岡 忍 平田商工会議所 職員 小村 孝治 日下 晃久 坂本 逸志 伊藤 香奈	・呼称「ミッションコーディネーター」 ・平田商工会議所職員と兼務

(6) 運営指導委員会の体制

所属団体（所属・名称等は申請時現在）	氏名
島根大学総合理工学部建築デザイン学科	教授 細田 智久
スプレッドリンク株式会社（島根県6次産業化プランナー）	代表取締役 矢野 俊人
島根県立大学人間文化学部	学部長 岩田 英作
伊野地区自治協会	会長 多久和 祥司
しまね国際センター	常務理事 高橋 泰幸
地域・教育魅力化プラットフォーム	共同代表 岩本 悠
島根県教育委員会	教育監 佐藤 睦也

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

- ①教員、生徒が一堂に会したコンソーシアム協働活動成果発表会の開催
- ②コンソーシアム構築・運営に係る合同研修会の実施
- ③県内管理職会、教科主任会での取組共有と研究
- ④地域課題解決型学習実施に係る年間計画の作成様式の提示

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

教育魅力化推進事業	学校・家庭・地域の連携を図りながら, 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校という「校種の壁」を越えた一体的・系統的な教育活動を展開し, 「教育の魅力化」に取り組む市町村等を支援
明日のしまねを担うキャリア教育推進事業	適切に進路を選択する力を育成し, 社会人・職業人として自立した島根に貢献する人材を育成
高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業	コンソーシアム構築モデル校での実施体制構築活動ノウハウの普及などを, 合同研修などを実施して成果を拡散する。
高校魅力化評価システムの構築	「社会に開かれた教育課程」の要素を定量的に把握
コンソーシアムへの伴走	県教育委員会を中心にコンソーシアムを支援する伴走
島根県立大学との連携	島根県立大学と包括協定を締結し教育分野での相互連携協力

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

①地域協働スクールの実現

高校魅力化コンソーシアム設置・運営のため, コンソーシアム運営費や, コンソーシアム統括マネージャーの人件費を支援する事業を実施

②地域資源を活用した特色ある教育課程の構築

地域課題解決型学習等の推進, 大学との連携による地域をフィールドにした教育活動, 教育魅力化コーディネーター等の養成・確保・育成の支援を実施

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	しまねけんりつひらたこうとうがっこう				②所在都道府県	島根県
2019～2021	① 学校名	島根県立平田高等学校					
③対象学 科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年		計	生徒数463	
普通科	152	157	154		463	教職員数53	
⑥研究開発 構想名	地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」の構築						
⑦研究開発 の概要	<p>次の3つのテーマによる地域協働学習を軸としたカリキュラム開発を行うことをとおして、地域人材育成循環システムを構築する。</p> <p>(1) 地域ブランドの創出 ～出雲産あずきの普及～</p> <p>(2) 多文化共生社会の推進 ～外国人が住みやすい街づくり～</p> <p>(3) ファン人口・交流人口の増加策 ～木綿街道・本町商店街の活性化～</p>						
⑧研究開発 の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標					
		<p>&lt;目的&gt;</p> <p>地域に誇りをもち、地域活性化の推進に主体的に取り組むことができる人材（プラタナスの木）を育て、その人材がさらに次世代の人材（新たなプラタナスの木）を育てていくという、循環型人材育成のシステム（肥沃な土壌を生む仕組み）を構築する。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <p>地域協働学習により生徒の地域肯定感を育て、過疎化や高齢化、産業の衰退が進む平田地域において、今ある地域資源を活用して、新たな価値を生み出し、地域にイノベーションを起こすことのできる人材を育成する。</p>					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説					
		現状の分析			研究開発の仮説		
平田地域では、宍道湖西岸地区の水田を国営農業基盤整備事業としてあずきなどの高収益作物への転換が行われている。この事業には、行政、島根大学、農業関係団体が数多く関わって巨大な産学官連携ができており、多様性と将来性を兼ね備えた魅力ある取組である。			出雲産あずきの全国への普及を目指して「商品開発」と「基礎研究」を行うカリキュラムを開発することで、地域ブランド創出のノウハウが得られるのではないかと。また、地域ブランドを次々と創出していくことができる地域人材を育成することができるのではないかと。				
出雲市はブラジル人労働者とその家族の移住により塩冶町や斐川町を中心に人口が増えており、今後、平田地域にも居住者が増えると予想される。しかし、ブラジル人と日本人との交流の機会は少なく、ブラジル人が日本で安心して暮らしていくためには地域の受け入れ態勢を整える必要がある。			ブラジル人との「交流活動」や日本人への「啓発活動」についてのカリキュラムを開発することで、平田地域がブラジル人にとって住みやすい街になるのではないかと。また、同じような手法によって他の外国人にとっても住みやすい街づくりができるようになるのではないかと。				
平田地域は、全国的に有名な松江城と出雲大社の中間にあるが、観光客を取り込むことができていない。平田地域の中心部にある木綿街道や本町商店街の特長を生かすことができていない。また、島根県全体でみても外国人観光客は全国で最も少ない。			木綿街道や本町商店街へのファン人口を増やせるイベント企画や観光振興についてのカリキュラムを開発することで、平田地域への観光客を増やすことができるのではないかと。また、平田地域に愛着をもち定住しようとする人が出てくるのではないかと。				

⑧  
-2  
具体的  
内容

(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画

総合的な学習（探究）の時間 各学年 1 単位			
月	1 年	2 年	3 年
4 月	・ガイダンス	・ガイダンス	●個人探究活動
5 月	・職業人講演会	・フィールドワーク	・志望理由書の作成
6 月	・学部学科研究	・大学教員の講演会	・志望理由プレゼン
	・地元企業ガイダンス	・地元企業ガイダンス	・3年間のまとめ
7 月	・研修旅行調べ学習	◆班別探究活動	●中学校で成果発表
8 月	・地元企業調べ	～大学生向けワーク	●進路に応じた自己
9 月	・研修旅行直前学習	ショップ～	PRのプレゼン作成
10 月	・名古屋研修旅行	～島根県立大学での	
	・研修旅行の振り返り	学生ゼミナール参加～	
	・研修旅行のまとめ		
11 月	・平田バスツアー	◆班別探究成果発表	
	・2年成果発表を聴講	・地域活性化講演会	
12 月	●個人探究活動	●個人探究活動	
1 月			●3年間の学びの振り返り
2 月			
3 月	●成果発表会	●成果発表会	

○各教科・科目では、上記内容に関連したカリキュラムを開発し実施する。

(例) ・科学と人間生活, 生物基礎, 生物・・・あずきの成分分析など

・地理 A・B, 世界史 A・B・・・ブラジルの文化, 習慣について

・数学 I・・・観光客数, 売上金額などのデータの分析

・社会と情報・・・成果発表資料作成スキル (Word, Excel, PowerPoint)

○成果発表会には、コンソーシアムを含めた関係者を広く招致する。

(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制

1. 地域協働学習 ワーキングチーム (教頭, 5つの分掌の担当で構成) 月1回実施 地域協働学習全体のカリキュラム開発, 全体の取り組み状況確認
2. 地域協働学習 授業担当者会議 (各学年ごとに開催) 月1回実施 総合的な学習(探究)の時間におけるカリキュラム開発 クラスごとの取組状況の確認
3. 各教科の研究授業 (教科ごとに開催, 他教科の教員も参観する) 各教科で年2回実施 各教科・科目におけるカリキュラム開発 教科内の取組状況の確認
4. キャリア教育推進委員会 (教頭, 各分掌・教科・学年のキャリア担当で構成) 年3回実施 (4月・9月・3月) 各分掌・教科・学年における取組状況の確認

(3) 必要となる教育課程の特例等

なし

⑨その他  
特記事項

平田高校との連携協定

・平田商工会議所 (2018年11月9日締結)

・公立大学法人島根県立大学 (2019年7月19日締結)

島根県との連携協定

・公立大学法人島根県立大学 (2019年3月4日締結)